

# 図書館通信

# 93

1990. 10

## 特集：図書館におけるニューメディア

近年、技術革新による情報媒体の多様化に伴い、ビデオ、コンパクトディスク、レーザーディスク、CD-ROM等のニューメディアと呼ばれる資料が、学術情報の媒体及び図書館資料として重要な役割を果たすようになってきました。

本学図書館においても、このたび、教育研究学内特別経費の配分を受けて、「ニューメディアの導入による図書館機能の向上に関する調査研究」(プロジェクト研究)に着手することになりました。このプロジェクトは、CD-ROMを中心とするニューメディアを図書館資料として積極的に導入・活用することにより、多様かつ高度な情報サービスを提供する可能性を追求しようとするものです。

そこで、本号では、ニューメディアとしてのCD-ROM等の特質と利用の現状について紹介をしてみたいと思います。

- ◆ CD-ROMとは、なにか？      音楽の方では、LPを駆逐してしまい、完全に主流となったCDだが、そのうしろに、
- ◆ ハードとソフト．．．      ROMの文字がくっついたものは、まだまだ一般化しているとは言い難い。
- ◆ 我が国の全出版物が      単にROMだけなら、パソコンの方で、使  
1枚のCDに．．．      われており、それなりになじみのある言葉だ  
ろう。Read Only Memory——読み出し専門の  
記憶媒体である。CDのうしろについている  
それも、まったく同じ意味である。
- ◆ 図書館の蔵書目録も！！
- ◆ そして、学術雑誌総合目録．      CD-ROM
- ◆ さらに、雑誌がフロッピー      12センチのCDに、音楽だと約75分収録で  
の形で出版される．．．      きるが、文字情報の形にすると約6億字入れる  
ことが可能となる。通常、百科事典の1ページ  
当りの字数は、4000字程度なので、単純に計  
算すれば15万ページ分収録できる(4ページ幅)

## 図書館サービスの **現** いま **在**

——静岡大学附属図書館における新しいサービスについて——

情報サービス課長 長谷川源三郎

編集委員から着任の所感でもあるまいから自由に何か書いてくれないかということで、あまりまとまりがありませんが感想を述べますのでご容赦願います。

本学図書館は蔵書数約85万冊で学内の図書資料の集中化・共同利用が進み利用者にとっては利用し易い図書館と思います。昭和61年から業務が迅速化・省力化し、さらに利用者へのサービスの向上を図って図書館業務の電算化を行なっています。さらに、5月から学内LANを介し学内蔵書検索システム(OPAC)が稼働し各研究室から端末により約所蔵データ10万件の検索が可能となり、大学の研究活動の支援の強化が図られています。

また、4月から視聴覚コーナーを設けAV資料の利用を開始したが非常に好評で連日多くの利用者をみえています。言うまでもなくこれらのビデオ、コンパクトディスク、レーザーディスク、CD-ROM等のニューメディアは学術情報の媒体及び図書館資料として、図書館サービスの向上に資するものとして益々重要な役割を果たしています。したがって図書館サービスの向上に資するために機器、ソフト両面での整備充実の必要があり、本年度教育研究特別経費から配分が認められて増強できることになりました。

さて、館外貸出、文献検索、文献複写等相互利用等の利用については着実に伸びております。ここ十年来図書館資料費が横ばい状態であり、魅力ある蔵書構成ができないのではとの危惧をいただいています。前号で部長の着任の所感でも述べておられますが資料費の増強を何としても実現するよう努力していかねばならないと思っております。

念願であった閲覧室の冷房設備であるが、本年度2年計画の1年次分として閲覧室の一部工事が行なわれることになり来年夏から快適な利用ができる様になります。また、正面玄関まわりの照明設備の改修も行なわれる予定であります。さらに、3階外国雑誌閲覧室をカードロック式入退館システムによる無人人退館室として開放し、図書館閉館時に利用することができるようになります。

以上利用者へのサービスの向上を目的とした施策が行なわれていますが、各研究室からの学内蔵書検索システムに於ける遡及データの入力、AV資料やCD-ROM等のニューメディアの機器やソフトの整備充実、参考図書を中心とした図書館資料費の増額ならびに学習環境の整備など多くの解決しなければならない問題があることも事実であります。利用者にとって魅力がありまた地域社会にも開かれた大学図書館として一層の発展をめざして、これらの問題を解決する努力を続けて行きたいと思っております。全学の皆様のご理解をたまわり、ご協力ご支援をお願いします。

# ブルーストの国へ

NHK学園海外オープンスクーリング

フランス語研修旅行(ラ・ロシェル)に参加して

情報管理課和書係 藤田 洋

オルセー美術館の中でマルセル・ブルーストに最終日出会った時、私のフランスでの旅も遂に終わってしまったのだと実感する。私は、ブルーストの「失われた時を・・・」が大好きで一生のうち一度は作品の風景に似たフランスが体験したかった。

二年前ニューヨークを旅した時、自由の女神をながめながら私はF・カフカの「アメリカ」の主人公の場面を思い出している。それにしても、メトロポリタングッゲンハイム、そして今回のルーブルオルセー・ポンピドーの一連の旅の美術館巡りには多分相当ぜいたくな思い出が残りそうである。カンディンスキーの抽象画は、名画ばかり見て些か食傷気味の時スッキリした気分になれる。勿論、オルセーの上階の印象派の部屋はまさに最も印象深い世界ではあったが——*Comme c'est romantique!*

フランス語の会話は十八カ月集中して学習してみて、いわば今回は十二日間の旅行の中で100%発表してこようという意気込みだった。テープを何本も聴き続け基本例文は相当覚えていったので場面としては困ることはなかった。Rの発音はともかく、BとVの区別が少し・・・らしかったが、サバイバル・フレンチなら十分だったようだ。綴り字に絶対とらわれないでTVのフランス人の口真似をしていると、映画を見ていると決まり文句は随分わかる。旅をするだけに必要な会話は高が知れているが、どんな場面でも一言二言伝わるとその場面がとてもなごん

だものになる。考えようによれば必ずしも大量のことばを発せなくても少し口にするようにしていると気がつかないうちに、フランスの田舎に溶け込んでいると思う。私は本を訳したりは出来ないかもしれないがラ・ロシェルのお城のある町でもう暫く生活してもさほど困らなかったかもしれないような気もする。

バゲットはとても堅いが、講師の先生と、あんな堅いパンばかりかじっているからフランス人はあごが鍛えられてあんなによくしゃべるのではないかと旅の中で話したことは懐かしい。ワインがとてもおいしくてエッフェル塔から夜景を見ていて少し足元が危なかったが、当のエッフェル塔に七月の夜いるのはアメリカ人と日本人ばかりのようで信じ難い。それにしてもフランスでは、水がタダとはいかないようで旅の途中で一度ダウンした時は実際困ってしまった。チーズはもともと好きだったので毎朝楽しみだった。セイチーズをブディトロマージュと言って



いる人もいたようだ。ガトーもとてもおいしく、シャンゼリゼで一個五フランのチョコを大量に買い込み結局それがはるばる海を渡り職場へのお土産となった。それにしてもあのお店は人の列が出来ていて、買ったあと私は凱旋門からノートル・ダム寺院まで一人とぼとぼ歩いている。

職場での暖かい理解があって、短い間に二度も欧米に遊ぶことが出来、私としてはもはや行く所はないような気がする。二度の旅行とも必ずしも順調とは限らず失敗とか苦い思いはいくつもあった。さ

(1ページから)

ことになる。全巻数20以上の大百科事典をすべて収録しても、その1/10程度使用しているにすぎない。とはいうものの、印刷されたものとは異なり、文字情報だけでは、目的とするものを見ることができないので、そのためのスペースも必要で、例えば、「広辞苑」では、文字(テキスト)部分3000万字に対して、索引(インデックス)部分に1億3000万字分使用している。「現代用語の基礎知識」になると1000万に対し1億5000万である。

※8センチのCDを使った「広辞苑」も出始めた。これは、携帯用の専用機器(データディスクマン、という名称である)を使用する。手頃な値段と相まって、爆発的に売れているとのこと。

#### ハードウェア

音楽を聴くのにプレーヤがいるようにCD-ROMの中身を見るためにも、専用の再生機器(ドライブ)が必要である。また、スピーカに相当するものとしてディスプレイ装置が必要だし、両者を結びつける装置も必要となってくる(さしずめアンプか?)。通常は、パソコンである。ドライブとあわせると、最低でも50万円はするわけで、普及するためのネックといえる。早く手軽に買える値段となつてほしいものだ。

らに、公務員の貯金の中だけの外遊で懐も寂しい。しかし学生時代からの夢を自力で達成出来て良かったと思っている。”タイム”はニューヨークから帰って購読している。又、第三の外国語も始めたりしている。ものにはならないだろう。又、実生活に役立つこともないだろう。しかし、上手に取り組みれば効果も上がり余暇も有意義になったりする。情報検索の端末の前に今日も一日すわりながら再び次はどのへんに進出してみようかと無邪気に考えている。

#### ソフトウェア

パソコンを使うとなると、プログラムが必須なので、単にソフトウェアと書くと、それと勘違いされそうだが(実際、検索性プログラムとCDドライブを制御するそれが必要である)、ここでは、CDの中に収められている<情報>の意味で使う。どのような内容を持ったCD-ROMが出ている(=出版されている)か、という程の意味である。

「世界CD-ROM総覧」の最新版には国内173、海外257のタイトルが収録されている。その中には、パソコンゲームのソフトも含まれているので、本稿の対象となるものの数は、それよりは少なくなるが、思いのほか多くが出ているといえよう。以下、その中のいくつかのタイトルを掲げるが、その急速な進展ぶりを、うかがい知ることができると思う。

#### (1) 辞書・百科事典類

- ・広辞苑
- ・現代用語の基礎知識
- ・最新医学大辞典
- ・角川日本地名大辞典
- ・英和独露 電気術語大辞典
- ・Oxford English Dictionary
- ・International Encyclopedia



- of Education
- ・Kirk-Othmer Encyclopedia
- of Chemical Technology
- (2) 出版情報等
- ・日本書籍総目録
- ・J-Bisc(JAPAN/MARC)
- ・東販CD/ROMシステム
- ・Books in Print Plus
- ・Ulrich's Plus
- ・BiblioFile
- ・French National Bibliography
- ・German National Bibliography
- (3) 書誌・抄録等
- ・Index to Legal Periodicals
- ・MEDLINE
- ・CAB Abstracts
- ・Science Citation Index
- ・Library & Infomation
- Science Abstracts

- (4) その他
- ・職員録(大蔵省印刷局)
- ・有価証券報告書総覧
- ・リーガルベース
- ・Shakespeare on Disc

・The Bible Library  
最後のふたつは、前者は全作品を、後者は本文および関連刊行物20種を収録、単語、フレーズ等から検索することができる。当然、それらを掛け合わせることが可能なので、ひとつの単語でしか引けない冊子体の総索引よりは、ずっと優位に立つことになる。

ここまでは、こんなものが発行されている、という話だが、以下の3つは、当図書館で<稼働>しているもの。簡単な説明を次に続けるが、より詳しいことを知りたい人、さらには、実際に使ってみたい人は、参考調査係に問い合わせていただきたい。

**J - B i s c**

略さずに書くとJapan Biblio-Disc国立国会図書館が作成しているJAPAN MARCつまり磁気テープに収録した機械可読の書誌データを、CD-ROM化したもの。当図書館のものは、1984年以降に国会図書館に納本されたものの分で、年4回データの更新が行われている。冊子体だと10冊以上に及ぶものが、CD1

\*\* JAPAN MARC検索メニュー \*\*

書名 [ ]

著者名 [ ]

件名 [ ]

NDC [ ] NDL分類 [ ]

出版者 [ ] 刊行年 19[ ]年 ~ 19[ ]年

検索内容：項目間 [ AND OR ]      単語間 [ \*→AND, +→OR ]

ISBN [ ]      NDL請求記号 [ ]

官公庁コード [ ]      印刷カード番号 [ ]

JP-NO. [ ] ~ [ ]

---

PF1:終了 PF2:入力消去 PF3:LOOK PF7:検索切替 PF8:一覧 PF9:HELP PF10:検索  
カナ 半角

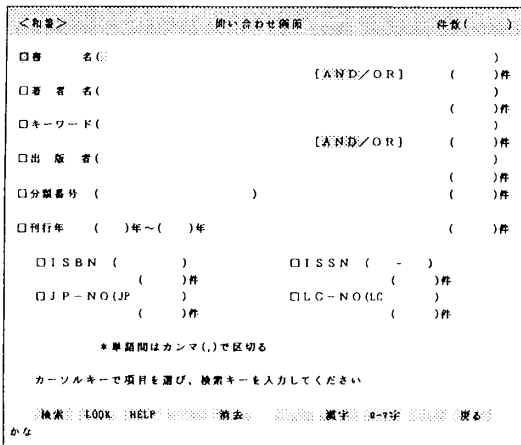
枚という量の問題もさることながら、  
 <更新>される、というメリットは、  
 CD化のたまものという。

前ページ下図は「メニュー画面検索」の  
 検索メニュー画面。検索したい項目にカ  
 ーソルを移動させ検索条件を入力すると  
 目的とする結果が得られる。中間部分に  
 「検索内容」という項目があるが、それ  
 を見ると項目間および単語間それぞれ  
 ANDとORが可能となっている。また前方  
 一致(ワイルドカード)検索もできるので  
 ごく一部のとっかかりがあれば、目的と  
 するものに到達できるわけだ。

一番下を見ると、「PF7:検索切替」と  
 ある。「コマンド画面検索」もできるよう  
 になっている。<我が国の全出版物>を対  
 象とするようなデータベースには、多重  
 な検索式が実行できるコマンド形式の検  
 索は、検索結果からノイズを減らすため  
 にも、不可欠な機能といえるだろう。そ  
 のほか、検索結果のリスト化やカードイ  
 メージでのプリント・アウト、ダウンロ  
 ード機能など、多くの便利な機能を標準  
 として持っている。

**AURORA ON CD-ROM**

これも略さずに書くと、Aoyama Gakuin  
 University Library Resources Online  
 Retrieval Assistance System on CD-



ROM、青山学院大学図書館の蔵書目録の  
 CD-ROM版である。

図書館創設時から1989年度までに整  
 理を完了した図書約52万冊と、逐次刊  
 行物約1万タイトルを和書/和雑誌編  
 洋書/洋雑誌編の2枚のCDに収めて  
 いる。感嘆すべきことである。

前図は「問い合わせ画面」。この書  
 名の項に'セカイ'AND'日本'と入力し実行  
 キーを押せば、青山学院大学の蔵書中  
 で書名、副書名、叢書名、統一書名の表  
 記あるいはヨミに「世界」と「日本」  
 の両方を持つものの一覧がでてくるわ  
 けだ。

お金と人手に解決しなくてはならな  
 い多くの問題はあるが、我が静岡大学  
 もこうなりたい、と思うのは我々図書  
 館員だけではないだろう。

**学術雑誌総合目録**

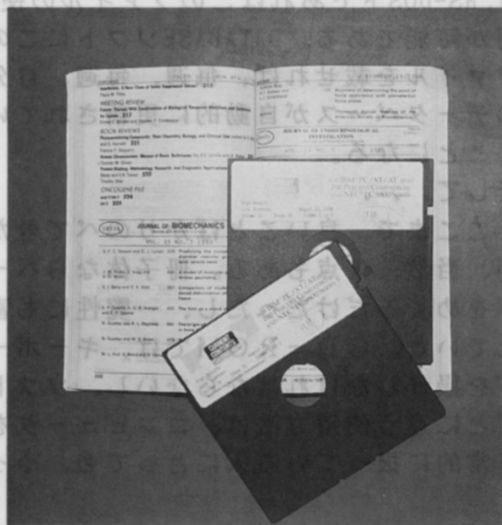
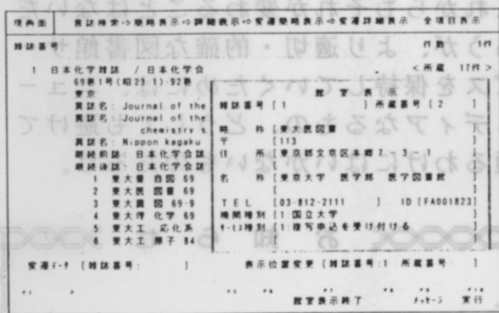
1,500を超える全国の国公立大学・  
 公私研究機関(もちろん、静大も含ま  
 れる)で所蔵している学術雑誌の、和洋  
 合わせて15万書誌、200万所蔵データ  
 をCD1枚に収録。冊子体だとA4版の本7  
 冊、10,000ページを超える分量である。

たとえば、「日本化学雑誌」を調べたい  
 時、「化学」「日本」を入力し、探し  
 出していくのは、前二者と同じ。出て  
 くる結果は、下記の図。これは、冊子  
 体でのそれと、ほぼ同じ形式のもの。

雑誌番号	雑誌名	刊行年	冊数	1冊
1	日本化学雑誌 / 日本化学会 (AN0018661X)	<所蔵 345冊>		
	創刊1号(昭和23.11) 92巻12号(昭和46.12)			
	東京			
	英語名: Journal of the Chemical Society of Japan			
	英語名: Journal of the Chemical Society of Japan Pure Chemistry Section			
	英語名: Nippon Kagaku zasshi			
	掲載雑誌: 日本化学会誌			
	掲載雑誌: 日本化学会誌			
1	北大 創刊 (1948.1950)			
2	北大 創刊 69.70.71(1.5.12).72.73(2.12).74.75(1.8.10.12).76.92 (1948.1971)			
3	北大 創刊 69.74 (1948.1957)			
4	北大 創刊 81.92 (1968.1971)			

ミソは次の図で、WINDOW表示を使う  
 とILL情報が得られること。ILLとい  
 うのは、本データベースを作成している

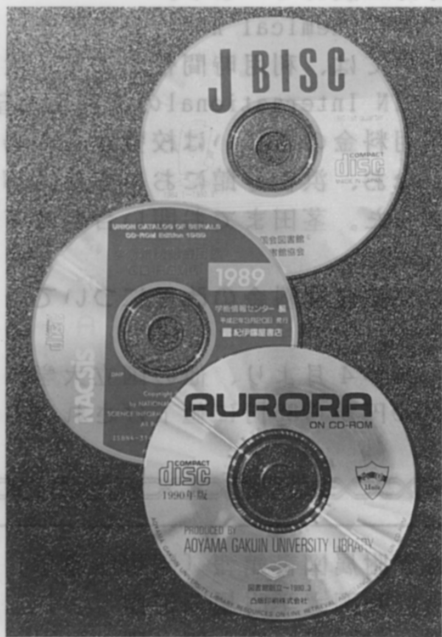
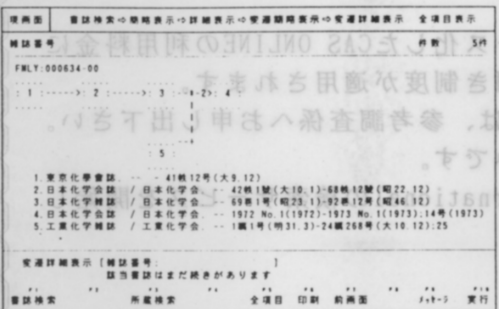
学術情報センターが力を入れようとしているサービスのひとつ、図書館間の相互利用のこと。で、WINDOWの中を見ると該当雑誌の所蔵先のひとつである東京大学医学部図書館の住所、電話番号、さらには、そこが複写を受け付けてくれるのか、くれないのか、そこまで分かる仕組みとなっている。



フロッピー版がリリースされるようになり本学でも理学部がペーパー版から切り替えている。

もうひとつの目玉が次の図。雑誌の誌名の変遷がわかることである。そのための誌名変遷マップもCDの中に収録されている。この図によれば「日本化学雑誌」は、かつては「東京化学会誌」あり、現在は「日本化学会誌」であること、そして、「工業化学雑誌」というものを吸収していることが分かる。

通常の検索を行なうのは、もちろんのことだが、一度使った検索式をバッファファイルとして登録する機能、そして、毎週新しいフロッピーが到着するごとにその検索式を自動的に走らせる機能を持っている。さらに、検索した結果をテキストファイルに保存する機能もあ



フロッピーによる雑誌……

…CURRENT CONTENTS

この雑誌は、その名の通り各雑誌の目次を、そのまま並べたものが本文。そのうしろに、延々と索引をくつつける、というもの。考えようによっては、ペーパーの形態ででていることの方が、不思議といってさしつかえない位である。

今年からNECのPC-98シリーズ用のプロ

り、MS-DOS下であればこのファイルの使用が可能である。DATABASEソフトにこのファイルを載せれば、毎週、毎週、自分のデータベースが自動的に更新されていくことになる。  
そして...

ここまで、良いことばかりのべてきたが、当然、欠点もある。冊子体ならページをめくるだけだったし、一覧性にも富んでいた。CD-ROMでは、キーボードを操作しなければならないし、ソフトごとに違う使用方法は、コンピュータを日常的に扱っている人にとっても、やっ

かいきわまりない。

とはいうものの、冊子体では不可能ないろいろなことが可能な点を探りたいと思う。蔵書が際限なく増えていく書庫に、毎日入っている身にとってはスペースの点も魅力的である。

もちろん、図書館のサービスの主体は、あくまで冊子体資料の提供でありこれからもそれが変わることはないだろうが、より適切・的確な図書館サービスを保持していくためには、ニューメディアなるもの、どうしても避けて通るわけにはいかないものだろう。

お 知 ら せ

☆オンライン情報検索サービスについて

従来のDIALOG, JOIS, NACSIS, TOOL-IR(東大), UTOPIA(筑大)のオンライン情報検索サービスに加えて、今年度より、STN Internationalの検索サービスを開始しました。

STN InternationalはアメリカのChemical Abstracts Service、ドイツのPIZ Karlsruhe及び日本科学技術センター(JICST)との共同の国際ネットワークです。主なデータベースは、CAS ONLINE, BIOSIS, INSPEC, COMPENDEXなどで化学、生物学、物理学、数学、工学、エネルギー、特許情報など広い分野に及んでいます。

特にChemical Abstractsをデータベース化したCAS ONLINEの利用料金については、利用時間帯により、大学割引制度が適用されます。

STN Internationalのご利用希望の方は、参考調査係へお申し出下さい。利用料金の支払いは校費からの場合のみです。

なお、浜松分館においても、STN Internationalの検索サービスを開始しました。茎田までお問い合わせ下さい。

☆文献複写料金の改正について

本年4月より、他の国立大学に文献複写を申し込んだ場合の1枚の料金が50円から35円に値下げされました。